

きくちだいじろうどうしかい  
**菊池大二郎同志会だより**

第4号 平成27年3月4日発行  
菊池大二郎同志会広報部

# 暗いと不平を言うよりも あなたが進んで 明かりをつけなさい。

～ある偉人が愛した言葉～

## ① 言葉を力に，声を力に，思いを力に。

これまで菊池大二郎が政治的な決断をしてから，早くも4ヶ月を迎えました。同志会の皆様，そして市民の皆様にも厳しくも温かいお声を頂戴し，本日まで活動をさせていただきましたことに改めて感謝申し上げます。

さて，先日，市内在住のとある方から表題にございます素晴らしいお言葉を本人が頂戴いたしました。『きっとあなたもこうした思いがあったのではないか』と。

お忙しいお時間の合間をぬって，菊池大二郎という人間と向き合ってくださいの方がいらっしゃることに誠に感激いたします。また，2月に入りましてから特に，『菊池大二郎がどういった人間なのか』という興味や関心をもってくださいの方々が日に日に増しておることに本人及び同志会一同，本当に感謝に堪えません。ありがとうございます。

これからも，お声を耳に入れることを恐れず，村山市内を駆けまわり，菊池大二郎に対する喜怒哀楽さまざまなお声を力に精進して参ります。

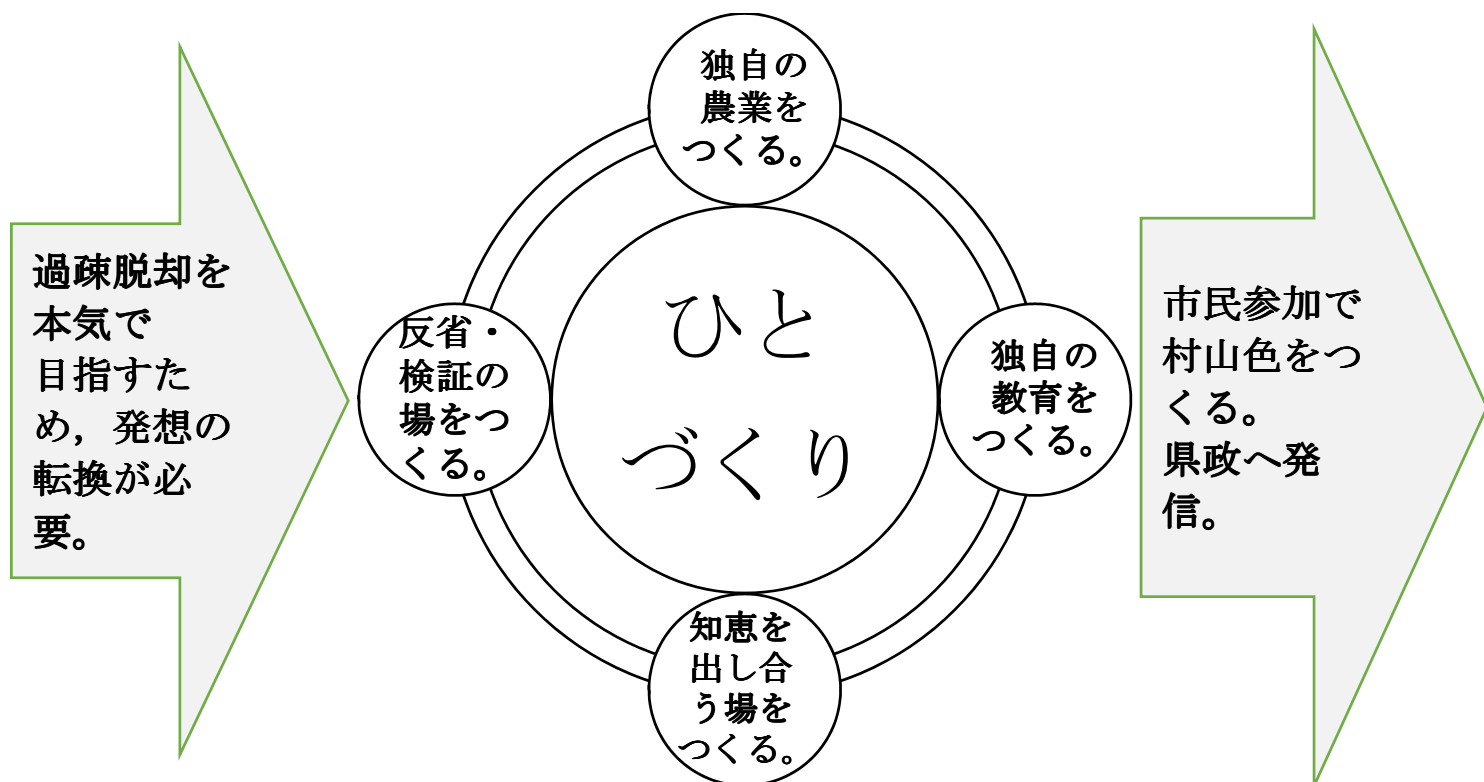
## ② 10年，20年，30年先をみすえて

前回の第3号にて，菊池大二郎の考える「人」「知」「大地」の3つの恵を連携・連動させることにより，『過疎脱却』という明確な目標を県政の立場から市民の皆様と勇気を持って本気で目指すことをご提案させていただきました。この目標の実現には，市政との強力な連携が必要であることは当然のこと，ここに息づく市民の方々すべて（小さい子供からじいちゃん・ばあちゃんに至るあらゆる世代）が目標を理解し，認め，意識や考え方を変えて少しずつでも実際に行動をおこしていくことが欠かせません。

つまり、色々な分野が協力して、子供から大人まで関係なく、村山の将来あるべき姿を明確にして、それに向けてみんなで学び・体験して、人として成長していくことが大事だと考えます。

それが、県政に村山の活きる（生きる）道を示し、『村山色』を力強くアピールしていくことにつながると信じます。

### 例えばのイメージ（農業と教育を例えに）



農業にしても、教育にしても、その他の分野にしても、一言で「なんとかしなければいけない」と片付けてしまうのではなく、今まで接点のなかったところで人を活かし、知恵を活かし、土地（自然）を活かしていくことが大切です。市民の皆さんに「村山はこれからどうあるべきですか」と質問された場合に、できるだけ多くの方々が同じ回答になるような土台づくりを急ぐ必要があります。なぜなら、すぐには変えられないからです。近い未来、遠い未来に、村山市がオンリーワン（かけがえのない）場所でありつづけるためにも、まずは大人の私たち一人一人が県政にどう発信していくのかを一日でも早く学び、考えていくべきです。それが、『ひとづくり』の第一歩であると思います。

第5号は近日発行予定。